

第30期社会教育委員の会議

第10回定例会

令和5年11月24日

【1】開催日時

令和5年11月24日（金）18時30分～20時30分

【2】開催場所

教育会館3階 研修室「ぎんが」

【3】出席委員

井上委員（議長）、堀井委員（副議長）、奥平委員、豊田委員、村上委員、村内委員、  
佐藤委員、新海委員、山崎委員

【4】出席職員

教育委員会事務局

渡邊生涯学習課長、佐々木社会教育係長、御園生社会教育担当係長、社会教育係主任

【5】傍聴人

10名

【6】次第

- 1 第9回議事録の承認
- 2 議事
  - （1）実践的連携・協働活動の報告Ⅱ
    - 校内居場所カフェ
    - オール世田谷おやじの会
    - 総合型地域スポーツ文化クラブ
- 3 全体での意見交換
- 4 その他
  - （1）今後のスケジュールについて

午後 6 時30分開議

○議長 ただいまから第30期社会教育委員の会議第10回定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日、峯岸委員が御都合により欠席との連絡をいただいておりますので御報告いたします。

それでは、議事日程に従って進めてまいります。

まず、第9回議事録案の承認でございます。事務局より事前に皆様に連絡があったと思います。何かお気づきの点、訂正すべき点などがございましたら申し出ていただいて、皆さんと確認していきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。問題がないようでしたら承認をお願いいたします。

ありがとうございました。承認といたします。それでは、この会議終了後、村上委員と山崎委員、署名をさせていただきますようお願いいたします。あわせて、今回の議事録の署名については新海委員と堀井委員をお願いしたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

なお、修正の有無にかかわらず、後日事務局より完成版を配付するというところでございます。

では、議事に移ります。

前回の定例会と同様に、今回も実践的連携・協働活動の報告Ⅱといたしまして、3つの活動について御報告をいただくことになっております。

また、この報告会は、委員の皆様の関係者にもお集まりいただきまして、今後の活動の参考にしていただく、そのために公開の報告会と位置づけております。

今回も、委員の皆さんの所属する団体から約20名の方が参加される予定と聞いておりますが、問題がないようでしたら拍手をもって承認したいと思います。いかがでしょうか。

[ 拍 手 ]

○議長 ありがとうございます。では、関係者の皆様に御入室いただきます。

こんばんは。本日は、お忙しい中、報告会に御参加いただきましてありがとうございます。既に御案内かと思いますが、この社会教育の会議の議事の部分に参加していただくということでございます。参加に当たりましては、録音、録画、写真撮影等は御遠慮いただきますようにあらかじめお願い申し上げます。また、議事終了後、大変申し訳ないですが、退室をしていただくということになりますので、どうぞ御了解ください。

それでは早速御報告いただきます。よろしくお願いいたします。

○委員 では、よろしく申し上げます。本日は、地域住民と学校の連携・協働モデルとして、『校内カフェ』を区立中学校内に作る計画「実施に向けた課題整理」の御報告をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

本日の報告概要は、以下のとおりです。

校内カフェを思いついた背景についてお話をいたします。

初めに、校内カフェとは、一般に学校内の場所をお借りして、定期的に開催する無料のカフェで、その運営団体は、NPO、任意団体など様々です。東京都の公立中学校の事例では、西東京市などがあります。

この提案に至った背景には、私が子ども食堂、ユースキッチンの運営をしていること、シンポジウム「居場所カフェが学校を変えていく」への参加があります。

私は、2015年11月から子ども食堂を、2019年7月からユースキッチン地域の方々と開催しています。

子ども食堂の活動を通して、子どもの利用には保護者の同意や促しが必要、子どもにとって、初めての場所で、知らない人たちと食事するのはハードルが高い、小学校の高学年にもなると、今までの習い事に加えて、塾などに通い始め、さらに中学生になると部活動が始まり、忙しくなる。加えて、中学生は年上の人とのコミュニケーションを好む傾向がある。このようなことから、中学生にとって子ども食堂は居心地がよいのだろうかと感じているこの頃です。

また、ここでユースキッチンの活動について少し説明をさせていただきます。正式名称は、世田谷・ユースキッチンin松沢です。地域住民で立ち上げた任意団体、はぐくみプロジェクトが運営をし、区立の松沢中学校、世田谷区社会福祉協議会に御協力をいただいて活動をしています。毎月1回、土曜日の午後に開かれる、子どもが食事を待っているだけでなく、自分で作れるようになるためのキッチンです。区立松沢中学校の家庭科調理室で開催をしています。

コロナ禍で活動を休止し、その後、不定期での開催となっておりますが、この9月より開催をしています。

このユースキッチンを通してですが、区立の中学校の家庭科調理室での活動のメリットとしては、小学生にとっては、いずれ通う中学校を知るきっかけになる、中学生にとっては、いつもの学校なのに違う感じがする、設備や備品が整っているなどがあります。また、先生方が立ち寄ってくださる、校長先生などもそうですが、立ち寄ってくださることもあ

り、ふだんの先生とはちょっと違う顔で接してくださっているということも、子どもたちには、何かとてもメリットに感じるようです。

また、2019年8月に開催されたシンポジウム「居場所カフェが学校を変えていく」に参加し、校内カフェの取組を知り、関心を持ちました。ここでは、高校内でNPOが開催している事例が紹介されていました。

その中で印象に残ったことは、「校内カフェは、利用者の日常、毎日行く学校の中にあるので、子どもが気軽に立ち寄りやすい場所（サードプレイス）となっている。」「何もしなくてもよい場所。」「子どもたちの様子を継続的に見守る大人の存在。」「学校は完全なルール、カフェは、いいかげんなルールと不完全なサービスなので未完成、いつも何かが足りない、これによって生徒たちの主体性が生まれ、居心地のよい場所を自分たちで作り始め、その過程の変化を楽しみ出し、意識が参加から参画へと変わっていく。」、などです。

また、校内カフェの期待できる効果として、「学校に対する地域住民の意識の変化のきっかけになっている。」「地域の拠点として親しみが生まれる。」「一緒につくり上げていく可能性に満ちた場所となる。」「程よい距離感を持ちながらの子どもたち、地域の人の交流の場となる。」などが挙げられていました。

以上のことから、校内カフェを区立中学校内で行う計画を提案いたしました。

校内カフェで実現したいことについてお話しします。

目的は「中学生が気軽に立ち寄り、ホッとできる居場所を、中学校内に地域の輪で創る」です。その内容は、地域の人たちが学校内の場所をお借りして、定期的にカフェを開催。

まずは簡単な飲み物とお菓子を用意して数人の地域の大人で始めます。運営団体は、地域住民を中心に立ち上げます。連携・協働先として、区立中学校、世田谷区社会福祉協議会、大学などを考えています。

実施スケジュールは、このように考えました。実施スケジュールに従って実施を検討している区立中学校の校長先生を訪問し、ヒアリングをしました。

校内カフェに対する感想として、「現在、世田谷区内の中学校の中では、地域との関係は活発とは言えない。」「ふらっと立ち寄るという時間をどう扱ったらよいのか。」「地域に開かれた学校の観点から、活動の場として学校を使うことには問題はない。」「子どもたちが利用するだろうか。」「校内カフェの開催は、現在の活動の実績を積んでからが望ましい。」とのことでした。

「校内カフェ」実施に向けた課題については、「開催時間については、平日の放課後実施については、生徒の安全管理上難しい。」「学校として地域に開き始めている段階なので、活動実績をつくってからが好ましい。」「子どもたちは利用するだろうか。」でした。

このことから、校内カフェの実施のステークホルダーへのヒアリングも行いました。

ヒアリングは、校内カフェの計画経緯を説明した後に行っています。

はじめに、スクールソーシャルワーカーですが、対象の中学校のスクールソーシャルワーカーではありません。世田谷区内の小学校の支援員を経てから、現在は江東区の中学校でスクールソーシャルワーカーをされている方です。専門職の立場や経験からの御意見としてお話を聞いています。

校内カフェについては、肯定的なご意見でした。「ふらっと来ることができる雰囲気、大げさではなく、さりげないほうが訪れやすいのではないか。」「場所の広さ、環境としては、何々さんが来るから……となることが想像できるので、仕切ることができる広さがあるとよいのではないか。」「カウンセラーなど校内の専門的な人から声をかけられると利用の動機づけになることもあるのではないか。」「朝ちょっと立ち寄れることのできる場所での朝カフェもよいのではないか。」「すぐに活動を始めるのが難しいなら、児童館カフェから始めるのもどうだろうか。」というご意見をもらいました。

次に、ユースキッチン参加者の中学2年生女子へのヒアリングをしました。「校内カフェができたら」との問いに「行きたい」と回答がありましたので、「どんな場所だといい？ 何がしたい？」と聞きました。

「ちょっと一息つける場所が校内にあるといい。」「10分、20分の仮眠が取れるといい。」

「一人でもふらっと行かれる場所がいい。」「職員室の前を通らずに行かれるところがいい」ということだったので、「どうしてかな」と聞きましたら、「うーん、先生にどこ行くの？ と聞かれるから。」と答えていました。他には、「リラックスできる音楽がかかっているといい。」「いろいろな人と話がしたい。」という意見でした。

次に、ユースキッチン参加者の中学3年生の女子も、「校内カフェができたら」の問いに、「行きたい」と回答がありましたので、「どんな場所がいい？ 何がしたい？」と聞きました。

「愚痴を言える場所だといい」、「ホワイトボードがあるといい」、「抱き枕などリラックスできるものがあるといい」、「甘い飲み物とお菓子があるといい」という意見でした。

このユースキッチン利用者の保護者へも、ヒアリングをしました。

校内カフェについて御意見を聞かせてくださいとの問いに、「あるといいと思う。」「学校帰りに立ち寄り、気持ちを切り替えることができる場所があるといい。」「この地域には、子どもがふらっと行かれる場所が少ないと感じている。」「大人が仕事帰りにちょっと一杯立ち寄ってから家に帰るように、子どもにもそういう場所があるといい。校内にあると安心感がある。」との御意見でした。

世田谷区社会福祉協議会担当者の方は、「校内カフェについての意見を聞かせてください」に、「小中高校生の居場所支援が、この地域には少ないと感じている。」「これは乳幼児、高齢者、ひきこもりに対して必要者数が少ないため。」「放課後の居場所として、児童館、公園、部活動がそれに当たるけれども、学校の延長線上にあるように思う。」「学校になじみにくい子どもの視点に立つと、学校内に学校とは関係ないところから来ている大人がいる場所があるといい。」「同じ空間でも、いる人が替わると雰囲気が変わり、学校内にそういう校内カフェのような環境があると、もしかしたら学校に行きにくい子、そうなりそうな子に何らかの引っかかりになるかもしれない。」と答えてくれました。

この担当者の方は、中学生のときに、私立中学校だったそうなのですが、部活動には外部から指導者が来ていて、学校内であっても、部活動の時間は何か雰囲気が違い、楽しかった、そういった経験から、こういったお話をしてくれました。

「子どもにとって、学校と家庭の間のストレスの発散の場になるのではないか。」「大学生をスタッフに混ぜていくのもよいのではないか。」といったご意見を頂きました。

この提案は、担当者が大学生時代に、せたがやゼミナールという学習ボランティアで、中学生は身近なロールモデルをリアルに見ることで、将来の自分を具体的にイメージでき、それにより、今まではやらされごとだった宿題や課題への取り組み方が自分事へと意識が変わり、取り組み方が変わったという経験からだそうです。活動への協力としては、フードドライブ、食材定期便、人材の紹介などが挙げられました。

次に、神奈川県立田奈高校「ぴっかりカフェ」ボランティアへのヒアリングについてです。高校での活動ですが、実践者の立場ということからお話をいただきました。

ぴっかりカフェについてですが、簡単に説明いたします。2014年12月に、校内の図書館を、在校生や卒業生の居場所として活用する「ぴっかりカフェ」がオープンしました。この「ぴっかりカフェ」は生徒たちに大人気。昼休みになると、ぴっかり図書館に生徒たちが大勢集まり、サロンとしての機能を果たします。また、ふだん先生たちにはなかなか相

談できないことも、年齢の近い大学生ボランティアや市民ボランティアの方たちに相談し、よいアドバイスをもらっていることもあるそうです。

なお、このぴっかりカフェは、NPO法人パノラマが、バイターンのプロジェクトの一環として行っています。これは田奈高校のホームページより抜粋したものを要約して簡単に御説明しました。

このバイターンというのはバイトのインターンということで、バイトする、そこのつなぎをしている、そういうプロジェクトの一環だということとされているそうです。

このぴっかりカフェのボランティアのヒアリングについては、「区内で前例のないことをつくっていくには分かりやすい理由づけが必要なのではないか。」「学校3年間という時間は、子どもとの関係性をつくるのにはメリット。」「スタッフの間でその日の情報共有をする。これは、スタッフが問題、課題などを一人で抱え込むことを防ぐ、子どもとスタッフの個人的な関わりを防ぐことにつながっている。」とのことでした。

学校との情報共有、信頼関係の構築。これは、活動を継続していくためにはとても大切なこととお話をされていました。「校長先生が替わると方針が変わる」といったご意見も頂きました。実施に向けた課題の整理です。

利用者側のニーズとしては、中学生や保護者には校内カフェのニーズはあったことが分かりました。「ちょっと一息つける場所、愚痴を言える場所、帰宅前に気持ちを切り替えられる場所」「いろいろな人と話がしたい。」「学校とは関係ない大人がいる場所があるとよい。」これは地域の輪を生かすことにつながります。校内にあることはよいが、職員室との動線の工夫が必要ということから、学校内にある意義を再確認しました。

学校側からのコメントとして、「子どもにニーズがあるだろうか」には、ヒアリングから、子どものニーズはあることを確認しました。放課後に実施する場合に、「学校として生徒の安全管理にどう対応するかを考える必要がある」には、開催時間を工夫するか、生徒の安全管理対策を工夫するかを考えていくことが必要です。まずは「地域との信頼関係を構築する必要がある」には、現在行っているユースキッチンの活動実績を積み上げるということになりました。

最後に、地域からのコメントです。

「学校に行きにくい子、そうなりそうな子が学校に来られるきっかけになるかもしれない。」「ふらっと来ることができる雰囲気重要。」「地域だけでなく専門性のある人が関わることも重要。地域の大学生が関わるのもよいかもしれない。」「朝カフェや児童館カフェ

もあり得る。」これは校内カフェに向けた実績づくりとして、児童館カフェもあり得るといふことです。

以上です。御清聴ありがとうございました。(拍手)

○議長 ありがとうございます。これから質疑応答に入りますが、委員の皆様から御質問や御意見、いかがでしょうか。

○委員 ありがとうございます。とても分かりやすかったです。1つ質問というか確認というか、学校側の御意見としては、校内カフェというのは放課後の学校施設を使ってというような御意見が出ていたと思いますが、ユースキッチン参加者の中学2年生の女の子の御意見で、ちょっと一息つける場所が校内にあるとよい、10分、20分仮眠ができるとよい、一人でも行かれるところがよいとかという御意見があるのですが、これを聞くと、この女の子は、放課後ではなくて、授業の合間とかに、ちょっと休憩という意味で利用したいと言っているのかなと感じたのですが、そのあたりいかがでしょうか。

○委員 御質問ありがとうございます。この子は、学校を終わった後と家との間で、ちょっとほっと一息、寝ていきたいということで、何か常に眠いそうなんですね。それで、机の上で突っ伏しても何でもよいので仮眠を取りたい、そして、やはり仮眠を取ってから家に帰ると、学校であったいろいろなことを少しリセットできるので、そういったことがあるといいなというような意味で話しておりました

○委員 ありがとうございます。

○委員 大人が一杯飲んで家に帰るみたいに、子どももちょっとリラックスして家へ帰るところがあるといい、そういうニーズというのは、やはり確かにあると思うんですね。

今ちょっと気になったのが、新しいことをやるのには理由づけが必要だという1項目があったのですが、それは結構重要なことだと思うんですね。何かメリットがなければあまりやりませんので、その辺の理由づけをどうしていくか。単なるリラックスする場面があったほうがいいということが理由づけになるのかどうかということと、ちょっと出ましたが、不登校、学校に来れない子どもが来れるところがあるというようなところも一つの理由づけになるのかな、などと思いながら、いろいろな理由づけがあると思うのですが、どういう地域にしても、子どもたちにしても、学校側にしても、まあ、あまりメリット、メリットと言っはいけないのですが、やはり何かそれが必要な、というような気がして、その辺をどうお考えなのかなと。

○委員 ありがとうございます。私は理由づけがないのが、このカフェのよいところだと思っていて、いろいろな子どもたちでつくっていく、そこに来る子たちには何か意味があるだろうということでの、ほっと一息つける場所をつくりたいというのが本当の思いです。

ただ、それを思って学校に行きましたり、こうやってヒアリングをしていきますと、やはり理由づけ、学校の課題に対しての何か提案だったりとか、こういったことをやりたいという強い意思があつての提案だったりということの必要性を感じているので、そこは少し考えていく必要があると考えているといったところでよろしいでしょうか。

○委員 ありがとうございます。

○委員 ちょっと気になったのですが、この資料の21ページにある中学2年生女子のヒアリングで、職員室の前を通らずに行かれるところがよいとあるのですが、これはどういう心理状態で、どういう意味で言っているのかと。要するに声をかけられるのが面倒くさい、そこに行くことに罪悪感を感じる、何かいろいろ想像できるのですが、どういうことなんですかね。

○委員 今おっしゃったことも含まれているのですが、まず1つは、「校内カフェって、先生が知っていてやるの」ということを聞かれました。そして、今やっているユースキッチンがちょうど職員室の、子どもたちの下足場からすると、職員室の前を通って行くような位置にあるので、まあ、そこでもしやるのだったら、やはり、子どもって職員室の前を通るのにすごく緊張感が、言葉で表わせない緊張感もあるようで、一番に書いてありますように、「どこ行くの」と聞かれる、その問いかけにちょっとドキドキしてしまうんだということを書いていました。

なので、そこではない、美術室とかだと、ごちゃごちゃしているのと、職員室を通らないので、そっちがいいかなというようなことも話していました。すみません、答えになっていますか。なので、職員室の前を通るということにすごく緊張感があると、子どもたちの声としては、そのように話していました。

○委員 ありがとうございます。

○委員 ありがとうございました。

「居場所カフェが学校を変えていく」というシンポジウムに出られまして、学校側は完全なルールを求めていると同時に、カフェとしてはいいかげんなルール、不完全なサービス……。これは全く対立しているのですが、ちょっとここでの、その、調和性というものは、何か見いだすものはあつたのでしょうか。

○委員 調和性がないということのメリットを、ここでは言っています、学校はきちっ  
としているけれども、そこで子どもたちが緩める場所としてのカフェということで、これ  
は対比としての意味で書いております。

○委員 はい、分かりました。

○委員 前例のないことをつくっていく理由づけというところで、私は非常に悲しくなる  
というか、今の子どもたちの事情の中で、こういう居場所をつくるということが、もうそ  
もそも、それが大切であるにもかかわらず、それ以上何の理由が必要なのかと言いたい気  
持ちでいます。

本当にそれでやり始めて実績を上げていく、子どもの自死だったり貧困だったり本当に  
身近に起きている今の現実を、やはり大人たちが受け止めて、こういう活動を始める  
ということで十分なのではないかなと考えました。ありがとうございました。

○委員 ありがとうございます。

○委員 いわゆる実績づくりで児童館カフェ、そこから始めて、それをもう少し発展的に  
学校にやったらよいのではないかなというようにお話のように受け取ったのですが、それは、  
今おやりになっている子ども食堂と児童館カフェではイメージは違うのですね。

○委員 はい、違います。

○委員 両方とも学校外ですね。

○委員 スクールソーシャルワーカーさんの御提案なのですが、子ども食堂とか、このユ  
ースキッチン全くの任意団体での活動でやっているということで、児童館というのは区  
の管轄のものなので、そういうところでの実績をつくっていくというような意味だと思  
います。何というんですかね。

○委員 あっ、公の場というような……。

○委員 公の場ということですね。なので、そういうところでやっていますよという人  
の信頼、活動している人への信頼を積み上げていくということの意味だと思いますが、深  
堀りまではしていなくて……。

○委員 分かりました、ありがとうございます。

○議長 何かありますか。

○委員 先ほど皆さんが言ったように、子どものニーズがかなりあるということが一番大  
事かなと思いました。前も出たと思うのですが、やはり学校にあることの意味は何なの  
かなということは、確かにもう一度考える必要があるかなと思いますよね。むしろ、やはり

学校の近くの違う場所の方が、もしかしたら、子どもたちにとってはよいのかもしれないですね。

今日、ここへ来る途中、この下でも、何か中学生がさっき、たまっていましたものね。でも、ただ、やはりニーズはあるのだろうと思います。

やはり学校、部活を終わってとか、学校でちょっとほっとして、多分、もうこんなに遅いのに、暗くなっているのに帰らないということは、やはり学校の外に出て、ちょっとほっとして、それで帰ろうという子どもたちのニーズがあるのだろうと思うので、何かしら子どもたちが学校を終わった後にたまる場所、話せる場所とか、そういうものは本当に必要だと思うので、ちょっと活動実績をつくって……。

○委員 ありがとうございます。ここには載せていないのですが、やはり中学生の保護者の方で、子どもたちが帰るときに、ちょっとしゃべりたい、公園でしゃべっていると、何かいけないと言って散らされてしまったり、あと、ちょっとした空き地とか空き場所を見つけてしゃべっているけれども、何かもっとちゃんとした場所があると、親も安心だしというお声を聞きましたので……。

○議長 いつも会議ぎりぎりになってここに来るのですが、今日は少し早めに来て、1階の図書館の前、何と呼ばれている場所なのか分からないのですが、図書館の前のスペースの、机と椅子があるところに30分ぐらい座って仕事をしながら、観察と言っては言葉が過ぎるかもしれませんが、子どもたちの様子を見ていました。

4人の子どもたちのグループがいて、3人は年の近い男の子二人と女の子が一人、中学生か小学校上級生くらい。もう一人は低学年の男の子で、女の子はその子のお姉さんらしい。4人で仲良く話をしていましたが、そのうちにお姉さんだけが家に帰っていきました。でも、しばらくすると着替えて、またやってきて、年の近い男の子二人におやつのお菓子を差し入れて、弟さんに「お兄さんたちと楽しんで」と言って、どこかに言ってしまいました。

あそこは、学校ではなくて区の施設ですから、ある意味、児童館に近いものだろうと思うのですが、でも、ちょうど、さっきも言われたように、大人が家に帰る前に、ちょっと職場での気分を変えてから帰ろうとするような雰囲気もあって、意図しているかどうか分かりませんが、あの場所がそういう場所として機能していました。隣では3人の大人が将棋をしていましたが、近くに関係のないことをしている人たちがいて、でも、何かあったら、きっと助けてくれそうな、そういう空間があることにちょっと驚きました。

ここは、近所の人以外に知られていないのかもしれないし、委員がされようとしていることは、そうした空間を学校につくりたい、ということなのなか、と思いながら伺っておりました。

後でまた全体で、この話題は議論していきたいと思いますが、一旦、御報告をこれで閉じたいと思います。

ありがとうございます。

○委員 ありがとうございます。(拍手)

○議長 それでは次の委員、お願いいたします。

○委員 皆さん、こんにちは。今、オール世田谷おやじの会という会の会長をしています。

おやじの会って、まあ、御存じの方は御存じだと思うのですが、社会的にはまだまだこれから認知をされる会だと思っていて、基本的にはPTAというのが各小学校にあると思うのですが、お父さんたちが、そのPTAとはちょっと別に、お父さんたちで固まって、子どもたちの体験イベントとか、自分の子どもにはこんな体験をしてほしいというような、ちょっと一人ではできないお父さんたちが結託してみんなでイベントを開催したりとか、学校に協力しようということで活動している団体という認識です。

世田谷区には3分の2以上の学校にはあると思うのですが、全てにあるとは限りません。そういう意味で、おやじの会というものを説明してくれということで、オール世田谷のメンバーに今回、おやじの会を説明する動画をつくってほしい。あと、今回のテーマである学校との連携、どういう形で学校と連携しているか、どういうことが課題であるかを分かるような動画をつくってほしいと依頼をしました。

もう一つは、おやじの会はそもそも皆さんボランティアで、仕事をしながら、ふだん学校に協力したりとかイベントをやったりとかしているのですが、どうしてボランティアでそんなに一生懸命やるのだということを分かるような動画をつくってほしいという依頼をして、今回、東深沢小学校のおやじの会と、もう一つは駒繫小学校のおやじの会に、「何でおやじの会、協力するの」みたいなインタビューを撮ったものがあるので、ちょっとまずこの動画をご覧ください。ほとんどここに、私が今回皆さんに申し上げたいことが集約されているので、「おやじの会とはこのようなものです」、そして「こんな思いでやっています」みたいな、その動画を見ていただければと思います。

[ 動画視聴 ]

これがおやじの会の勧誘にも使えるということで、自分たちのおやじの会を説明するためにつくってくれた動画で、BGMになっている音楽は、おやじの会の自分たちのバンドで演奏しているんですよ。そういう音楽活動もおやじの会でやっていますというところで、BGMをあえてそれに加えたということです。

次に、その最大のイベント、お泊りのイベントをやっている様子の動画ですが、学校でキャンプをしようという、これはかなり手が入っているのですが、これを紹介したいと思います。

[ 動画視聴 ]

ありがとうございます。今あったのはラグビーの観戦をしているところとだと思のですが、お父さんたちは、自分が感動することだったり、面白いということ子どもたちに伝えたいんです。お泊りイベントのときにたまたまラグビーの試合があって、それをみんなと、子どもたちと一緒に見て盛り上がったということだと思のですが、そういう自分たちが体験して面白いと思うものを子どもたちに伝えたいという、だから、こういう体験イベントをいろいろやっているということは、彼らの活動意欲としては非常に大きいと思いますね。

では次、もう一回お願いします。

[ 動画視聴 ]

ここから速いですが、これが最もおやじの原動力ですね。あれだけのことをやりますから、とんでもない称賛が次々とやってくるんです。

[ 動画視聴 ]

はい、ありがとうございました。ボランティアでやっているから金なんて欲しくないという、逆に、もう自分たちのやっていることに対するプライドみたいなものが垣間見れましたが、それほど一生懸命やっているということだと思のですが、非常に盛り上がっている様子が分かるかと思います。

最後に、もう一つ、これは駒繫小学校なのですが、これは僕が「プロフェッショナル」みたいな感じで、おやじの会にインタビューしてくるといったものをつくってもらいました。

[ 動画視聴 ]

これは声が小さいかもしれませんが、この先はちょっとテロップが出てくるので、テロップを見ながら、動画と画像を見てもらえれば……。

[ 動画視聴 ]

ありがとうございます。僕が言いたいことをほとんど彼らが言ってしまいましたが、これでびっくりしたのは、インタビューの動画があったと思うのですが、これは事前に質問をして、「では、撮るよ」と言って撮っているわけではなくて、いきなり質問をして、いきなり動画を撮って、それを後から編集しているのですが、最初から「こういうことを聞くよ」と伝えたり、事前に「こういうことを聞くから答えてね」と言っているわけではないんですね。突然、質問しているのですが、彼らがいかにふだんからそういう、おやじの会とはこういうものだったり、もっとこういうことをしたいと思っていたりとか、おやじの会のことを考えているかということの象徴だなと思って、一番びっくりしたということが、これを見て思ったことです。

また、ここで出てきた「校長先生、素晴らしい」とか、「校長先生とはすごくコミュニケーションがいい」とありましたが、おやじの会で彼らが、この話の中にもありましたが、自分たちがやりたいと思うことだったり、こんなことをやったら子どもたちは喜ぶのではないかというイベントだったり、やりたいことに対して、校長先生と副校長先生が、さっきもちょっとありましたが、前例がないから駄目とは言わないんですね。何とかしよう。では、どうすればできるかということと一緒に考えてくれるから、彼らは「校長先生は素晴らしい人だ」と言っているのだと思うんです。

そういうお互いにウィン・ウィンの関係をつくるという、彼らもいろいろなイベントに協力したいとか、学校側に協力しようという、それでそういう意識も生まれてきているところもすごく大きいと思うので、この彼ら、これは突然今、質問を投げかけられて、パッと答えているのを見ていると、基本的にみんな優秀なお父さんたちだなと思うのですが、でも、ただ、僕は、彼らがとても素晴らしい、優秀な人たちというわけではなくて、きつとこういうチャンスとこういう機会があれば、こういう活動だったり、こういう方たちは、いろいろな活躍の場を広げて、おやじの会はどんどん盛り上がって、おやじの会がない学校もありますが、そういうところもいろいろ活動が、地域のコミュニティーができるのではないかなと、この動画を見ていて思っています。

この動画で飲み会がありました。おやじの会は、小学校から起点であるのですが、幼稚園とかにあるところもあつたりとか、幼稚園つながりのパパ友がいて、それが小学校が一緒なので、その中でいろいろ、そこを起点にして始まつたりとか、さっき飲み会とありましたが、結局おやじたちをまとめて、「こんなことができるんだけど、どう？ こん

なことをやってみたらどう？」と投げかけたら、どんどんどんどん相乗効果で盛り上がるということが起こるのではないかなと思います。

だから、学校側にぜひお願いしたいことは、この動画にもありましたが、そういう交流の機会をつくってもらえれば、おやじの会だったり、地域のコミュニティが学校と連携してやる、そういうつながりができていくのではないかなと、これを見て思っています。

今、オール世田谷は、学校におやじの会がない学校にも、こういういろいろな情報共有をして、おやじの会はすばらしいので、ぜひおやじの会をお父さんたちに投げかけてくださいということをやろうと思っているのですが、こういうイベントがある学校の子どもと、そうでない学校では雲泥の差があると思うんですよね。

同じ学校に通っていても、こっちは何か私立の学校へ行っているのかというぐらい、いろいろなイベントがあるし、そうでない、おやじの会がないところは、当然こういう活動も、おやじの会主催のイベントはないでしょうから、「同じ学校へ行っているのに、こんなに違うのか」ぐらいの違いが出てくるのではないかなと思っているし、子どもたちにとってみたら、その地域につながるということの意味を、このおやじの会の活動として体験すれば、自分たちもそういうことが当たり前だと感じてくれるのではないかなと思って、おやじの会の活動をもっと普及してもらおうと思っています。

私のほうからは以上です。質問があればよろしくお願いします。(拍手)

○議長 ありがとうございます。では、ただいまの御報告に対して質問や御意見等ありましたらお願いいたします。どなたかいかがでしょうか。

では、みなさんに少し考える時間を、ということで、私から質問をさせていただきます。学校に泊まるイベントは、災害時の避難所のようなことを意識されているのでしょうか。どうなんでしょうか。

○委員 めちゃめちゃ意識していますね。さっきのコメントの中にもありましたが、地域とつながったりとか、防災とか、ああいうものは、おやじたちにとっても、子どもたちを守る最大のミッションは、いずれ、震災が来ると言われていますが、そのときにどうするかと思っているので、オール世田谷でも、こういう現役、まあ、彼らはまだ30、40代の若いお父さんたちですが、本当にこういう地域でつながるチャンスがほかにない、町内会はもっと高齢化していて、また、昼の集まりとかは、当然お父さんたちは行けないので、さっきもZ o o mでミーティングとかをしていましたが、そういう自分たちができるときに、できる機会を使ってつながりをつくろうという努力を彼らはすごくしている中でやっ

ているので、地域のコミュニティーが入れないというか、ない中に、こういうおやじの会の活動をしていると、さっきもあったパパ友とか、この同じ世代のお父さんたちとつながるといふチャンスが最大の防災訓練だと言っていますが、そういうことにすごく意義を感じているお父さんたちは多いと思いますね。

○議長 他はいかがでしょうか。

○委員 変な質問ですみません、オール世田谷のおやじの会は、対象というか連携しているところは、ほとんどは小学校ですか。

○委員 今の質問で、もうちょっとここの説明をすると、各小学校におやじの会があります。では、オール世田谷とは何かと言われると、オール世田谷は基本的に、その各小学校のおやじの会を卒業したお父さんたちが、「おやじの会はすばらしい」という思いを持ったお父さんたちが、いわゆるおやじの会OBですね。僕もそうですが、そういうお父さんたちが組織をつくって、オール世田谷という組織の中で、各小学校のおやじの会を情報連携でつなげようというものがオール世田谷で、基本的に小学校が多いです。

それはなぜかということもあるのですが、御説明すると、子どもたちは基本的に小学校の3年生、4年生ぐらいまでは、まだお父さんと遊んだりとか、家庭にいて家族とつながりがあったりするのですが、4年生、5年生ぐらいになると、受験勉強が始まったりとか、友達とのつながりのほうが大きくなったりとか、それをお父さんたちは悲しくも思ったりするのですが、だんだん自分たちの世界を持って、中学校、高校生になると余計そうですが、家庭からは離れないですが、お父さんからだんだん離れて、自分の世界の中の生活が中心になるということがすごくあるので、だから小学校低学年ぐらいが中心で、まだお父さん、お父さんと言ってくれる時期に、子どもと一緒に何かやりたいという意味で、小学校がほほほほですね。中学校はほほあまりないですね。

○委員 私も中学校はあまり聞かないので、それはなぜかな、ということでちょっとお聞きしたかったので、今、回答をお聞きして分かりました、ありがとうございます。

○委員 中学校になると部活が始まったりしますよね。さっき、子どもたちが自分の世界で活動し出すということの象徴だと思います。

○議長 ほかはいかがでしょうか。

では、後で議論するために、もう一つ基本的な質問を私からしたいのですが、PTAという団体がありますよね。お父さんは家庭・世帯としてはそこに入っているわけです。でも、何となく一般的にはPTAはお母さんの集まりのようなイメージがありますが、決し

て女性の会というわけではない。そうすると、PTAの活動と、このおやじの会の活動の違いなどをどのようにイメージしたらよいのか、というあたりはいかがでしょうか。

○委員 その辺は、おやじの会の活動をしていて非常に感じる場所もありまして、基本的にPTAと言うと、お母さんたちが中心に活動していることが多いと思うのですが、お父さんたちもPTA会員であるので関わり的には同じなんです。

ただ、PTAは、さっきあった「学校に泊まろう」もそうですが、東深沢小おやじの会でやったナイトウォークは、羽田空港まで夜中に歩いて帰ってくるのですが、「そんなことをやって、何か起こったらどうするの？」ということでそこで止まってしまうと。

でもお父さんたちは、自分たちでそういう体験を子どもたちにさせたいから、「何とかするにはどうすればいいの？」みたいな、そういうスタンスの違いも非常にあると思っています。おやじの会があると、さっきは花火をばんばん上げていたと思うのですが、あれを普通やったら近隣から文句が出て、そして「花火の火の粉がかかってきた」とか、いろいろ問題が起こると思うのですが、あれをどうやってケアするのかみたいなお父さんたちが、近隣にビラを配ったりとか、いろいろ根回しとか、事前に準備をしたりとかいう、それをクリアするためにどうすればよいのかみたいな活動をしているというところが一番の大きな違いですかね。

○議長 ありがとうございます。いかがですかね。PTAでできない活動なのかというと、まあ、そうでもないのかもしれないけれど、でも、おやじの会はPTAと少し違う活動を指向しているのではないかというようなお話がありました。

○委員 そうですね、お話を聞いていると、活動しているお父さんたちが、自分たちが楽しむ、そして子どもたちが楽しんでいることが大事なことだとおっしゃっているのだと思います。

PTAの活動というのは、基本的には学校に協力するとか、子どもたちのためになる活動ということで活動をしているので、自分たちが楽しむということが目的ではないというところは、ちょっと一番大きな違いではないかと思います。

○議長 まあ、そのあたり、またいろいろな議論ができると思いますが、今日のスケジュールの問題もありますので、一旦ここで区切りたいと思います。どうもありがとうございました。

○委員 ありがとうございました。(拍手)

○議長 それでは、続いてお願いします。

○委員　こんばんは。プリントを1枚と、映像の代わりにお配りしてあります、この黄色い冊子の東深沢スポーツ・文化クラブ、フェスティバルという冊子、それから最新号のスポーツ・文化クラブの広報紙をお配りしてありますので、参考までに御覧ください。資料4になりましようか、後ろのほう、裏表A4判の1枚の参考資料になります。

東深沢スポーツ・文化クラブは、HFSCCと略していますが、これについては、もうこの社会教育委員の会議の中では、かなりお話ししていただきますので分かると思いますが、本当はこの場で、今日も傍聴でいらしていただきますが、スタッフの方にスタートから現状をお話ししていただいたほうが一番よく分かりやすいのですが、私が簡単に、この東深沢中学校の元校長でもありますし、実は世田谷区の当時の体育指導委員もやっており、そのときも世田谷区内のスポーツ・文化クラブの立ち上げにかなり立ち会っておいりましたので、多少は分かっているつもりです。

東深沢スポーツ・文化クラブ、HFSCCは、2002年に発足して、今年で21年目、昨年20周年記念をやったわけですが、東深沢中学校を中心に、先ほど東深沢小学校が期せずしてちょっとかぶってしまいました、みしまの森学舎、学び舎、東深沢小学校と等々力小学校、3校で学舎、学び舎があるわけです。

実は地域の中で、三島というところが、三島神社、それから三島幼稚園、三島という地名がありまして、それをもじりまして、「みて、しって、まなぶ」という、これは誰がつくったのか分かりませんが、そういうコンセプトでこの学び舎ができていくということで、大事なキーワードが「学校は地域のためにある」です。

これは当時の学校長と、それから地域の方々の共通の合い言葉と言いますか、コンセプトで、これがこの地域の一つの大きな哲学になっています。

もちろん学校は生徒のためでもあるのですが、もともと地域の核としての学校で、とても大事なのだというコンセプトが学校、特に校長と地域の中で共通理解としてあった。そこから全て始まっております。

そこで、地域の多世代の人たちがスポーツ・文化活動を通してつながり合って、青少年の健全育成と豊かな地域社会をつくることを目指すという考えで、当初、始めました。

現在は25クラブ、会員数483、コロナ前が800名ぐらいいたのだそうですが、コロナで減少してしまっていて、今現在はこの数になっております。

25クラブというのがこの冊子の裏側、これが全部一覧表になっておりますが、この25のクラブで活動しているということです。

もちろん21年もたっていますので、これは非常に口幅ったい言い方なのですが、既に連携・協働は取れていると、学校も地域も自負しているところがあります。

では、それ以上のことはあまりやらなくても、やる必要がないのではないかという御意見があるかどうか分かりませんが、そういう気持ちは、ムードは感じます。

ただ、21年にもなりますと、かなりマンネリ化してきまして、何か新しいことをという発想も大切だということで、今回こういう機会を得まして、カフェをやってみよう。先ほども、委員からのお話がありましたが、もう既に今、東深沢中学校で活動しておりますので、カフェをやってみようではないかということになりました。運動しますので、飲むことは自由にやっていますが、何か集い合って、そこで何かコーヒーなりジュースなり、何か軽食なりを食べて団らんをする場は今のところはない。では、それを新たにクリエートしようではないかということで始まりました。

東深沢カフェという仮称になっておりますが、そういう取組をしようではないかということで、こういう機会を得ましたので、私のほうで、実は私が現在は、この東深沢スポーツ・文化クラブの相談役という地位になっていまして、相談役というのは、私が相談を受けるのですが、今回は私がHFSCCに相談をするという相談役になって、「どう？ やって見ない？」ということで相談をしました。

最初に現校長先生に「どうですか」というお話をさせていただいたら、校長先生は「ああ、どうぞ」と。結構話が分かる校長先生で、「いいんじゃないですか、空いているところは使ってください」というような形でした。

また後で話をしますが、ある意味の生徒への還元もできるのではないかということをおっしゃいまして、それがまず第1弾だったのですが、その後で、今日もお見えになっているスタッフの方に話をしました。「いいですね」と。

ただ、今これだけの、25のクラブが学校で活動をしていますので、いわゆるハードの問題、場所の問題が、「どこか空いていますか」と。ほとんど空いていない状況で、もう大抵フルで使っているということで、では、どこを使うかという問題と、いろいろな課題が出てきましたが、そんなこともいろいろ話をしていく中で、「では、トライアルでやってみようではないか」というような話になって、少し話が進みました。これが1つ。

それからもう一つは、今、中学校でとても問題になっているのは部活動の外部移管、これは文科省が今、かなり声高に叫んでいます、あるいはスポーツ庁も叫んでいます、なかなか進まない現実がある。非常に難しい問題がある。これは2025年までに何とかしよ

うというような話になっていますが、現実問題として全然進んでいないのが実情である。

そういうことで、世田谷区教育委員会のほうで幾つかスポットの地域をつくって、移管してトライアルをやってみようではないかという話になっていまして、実は東深沢スポーツ・文化クラブに矢が飛んできて、部活動の外部移管の一つのトライアル校として、今活動を始めたということになっております。それについてはまたおいおいと話をします。

そこで、1番目、東深沢カフェです。基本的には「多世代交流の場と教育支援」ということで、実は学校教育活動がやられています。今のHFSCCの活動も、基本的には学校の教育活動と、共存共栄と言うと、ちょっと口幅ったいですが、それが第一義であると、学校教育が第一義であると。

その隙間と言ってはなんですが、そこで、当地域で何とか活動させてもらえないかというところから始まりました。でも、先ほど申しましたように「学校は地域のためにある」ということがコンセプトですから、でも、学校教育の邪魔はできないということは当然なことだと思います。

そこで、いかに学校教育活動と共存共栄していくかということが非常に大きな課題であります。

1つは、それについての克服をしなければいけないのですが、その課題は何かといいますと、学校管理者、特に校長先生の理解と協力がなければいけない。先ほどの2つの団体も、かなりこの管理者の理解と協力があることではないかなと思っています。

それから、安全・安心、特に児童生徒の安全・安心を担保しなければいけない。

それから3番目に、経済的な支援はどうするのか、協力はどうするのかと。

そして課題の克服ということで、まず1番目の学校の理解と協力は、もともと「学校は地域のためにある」というコンセプトがあるので、かなり意思疎通はできている。現在のこのHFSCCの活動も、かなりそういうコンセプトの中で活動をしているということ。

それから2点目に安全・安心の問題ですが、当初は生徒も一般住民も全部含めて、自由に誰でもが来れるということを理想としていたのですが、やはり学校管理者、特に管理職の先生は、誰が入ってくるか分からないことをたいへん心配されます。

HFSCCの活動は会員がIDカードをつけて入ってきますので、あるいは警備の方等も顔見知りがありますので、その辺は心配ないのですが、誰でもが入ってこれるとなると、やはり心配だというようなことで、その辺が1つ大きな課題になって、当面はHFSCCの会員に限定しようではないかと。ゆくゆくは別にして、当面はそこでやってみようでは

ないかということになりました。

3点目、衛生面。これは飲み食いが入ると、どうしてもやはり食中毒とか、いろいろな問題が出てくるというようなことで、ある程度限定的に、まず飲み物、コーヒーやお茶等の、最初は持ち込みだけにしようではないか、自分たちで持ち込んで、自分たちの自己責任で飲む分にはいいよということで、そのように話は進んだのですが、でも、こちらで少しは準備しようという形になりまして、コーヒー、ティーバッグ等は無料で提供しようとする。その他の飲み物は自分で持ってきてください。食べ物については宅配とかケータリングサービスもいいです。ただ、アルコールは禁止にしようとする。それから、遊び道具は少し準備しようという形になりました。

そして経済的支援については、会員や地域、それからスポーツ振興財団が、HFSCCには現物支給という形で支援してくれますので、コーヒーを作るものとか、ものは少しずつ寄附していただけるという形になりました。

そして裏面に、結果として最終的な結論になりますが、運営主体はHFSCC、HFSCCの25クラブありますが、その中の1つの自主クラブの位置づけとして運営しようとする。

2点目は、校長先生が「どうぞお使いください」ということで、生徒が、あるいは学校で使っていない範囲内の食堂、いわゆるランチルームを使って結構ですと。

そして、いろいろ学校教育でも、あるいは部活動の休憩場所とか昼食場所とかで使うので、調整した結果、12月からとにかく開始しようとする。それも月1回程度、土曜日の1時から6時までという形になりました。

今後の展望ですが、今は会員向けですが、ゆくゆくは地域住民、もちろん生徒、児童も含めて地域向けにやりたいなど。

それから2点目は、中学生になりますと、結構自分たちでコーヒーを入れたりお茶を入れたりできると。まあ、喫茶店のマスター並みの中学生の活躍の場を提供していければということですね。そういう形になりました。

それから、教育活動の支援、これはもちろん学習、その場で勉強をしてもいいよと、あるいは勉強を教えるよと。

あるいは、これは校長先生が一つの希望、期待をしているのですが、学校に来れない生徒、それがたまたまそういう、他の生徒がいない場所に、例えば担任の先生がちょっと呼んで話をするとか、そういう場所にできればいいね、というような発想をされていました。

それから、HFSCCの一つの大きな目標であるクラブハウス、今現在クラブハウスが

ミーティングルームというので活動しているのですが、いわゆるクラブハウス、専用のクラブハウスがゆくゆくは理想として、今、期待を持っていますので、これは行政が絡みま  
す、学校も絡みますので、専用のクラブハウスが欲しい、欲しいとずっと言っていますの  
で、これへの後押し、追い風になるかなというようなこともちょっと期待しております。

ちょっと長くなりました。もう1分です。部活動外部移管への協力です。これは今、世  
田谷区教育委員会がトライアルとして検証していますので、これについてはまだ結果が出  
ていません。今やっているのは、検証事業を、総合型スポーツクラブ、スポーツ財団、文  
化財団、民間事業者、今この4つのトライアルをやっています。

その中のスポーツクラブのHFSCCに白羽の矢が立って、東深沢中学校の体力向上部  
という部、つまりバスケットとか野球とか、そういう種目の部ではなくて、もちろん種目  
に入っている子どもが体力向上部にいる場合もありますし、帰宅部が体力向上部に入っ  
ている場合もあります。それが朝の7時から始業前にトレーニングをやっております。

30分ですか、始業前ですので、小一時間になるのでしょうかね、ほんの朝の少しのタイ  
ムを体力向上に費やしているということで、これにHFSCCのスタッフが指導者として  
参加しているという状況であります。これについては、まだトライアルが始まったばかり  
ですので、これからの課題が出てくると思います。

私の話は、雑駁ですが、以上でございます。ありがとうございます。(拍手)

○議長 ありがとうございます。それでは同じように質疑応答に入りたいと思います。  
委員の皆さんから御質問や御意見等はございますでしょうか。

先ほどおやじの会の報告がありました。その中で東深沢小学校の話が前半のメインで  
ありました。ということは、あのビデオに映っていたお子さんとお父さんたちが住んでい  
らっしゃるエリアということになりますね。

小学校から中学校へ行くときに、公立ではないところを選ばれる方もいらっしゃるでし  
ょうけれども、しかし、東深沢小学校から東深沢中学校に行かれる方も当然たくさんいら  
っしゃるわけで、直接的な関係はないのかもしれませんが、何か関係性というか……。

○委員 地域が一緒ですから、多分あれだと思いますが、今日オブザーバーで来られてい  
る地域の4人の方は、多分「あっ、あの人だ」と思われたお顔がいっぱいあったのではな  
いかなと思います。

○議長 スポーツ・文化フェスティバル、黄色い冊子には協力として、おやじの会の名称  
が出ていますよね。

○委員 そうですね、入っていますね。

○議長 これはどんなことをされているのですか。

○委員 文化フェスティバルには関係していますね、私よりも、今オブザーバーに来ているほうが分かるのですが、何らかの関係はしていると思います。

ちなみに、ちょっと言い忘れましたが、このスポーツ・文化フェスティバルは参加者が、地域の方1200人も訪れたそうです。これには当然等々力小学校、それから東深沢小学校おやじの会も絡んでいるということです。

○議長 その他は、いかがでしょうか。

○委員 東深沢小学校の子どもたちはみんな東深沢中学校へほとんど行きますので、それは当然絡んでくると思います。お父さんも中学校へ行けば、おやじとの関係がちょっと薄くなるのかもしれないですけどもね。

○議長 薄くなるというか、親子の関係性が変化してくるので……。

○委員 変わってくるんですね。

○議長 それは成長の過程としては……。

○委員 まあ、部活とかいろいろあると思いますから。

○議長 成長に伴って変わらないと、それはそれで問題になるかもしれませんが……。でも、きっと小学校のときに、ああいう関係があることで、お父さんあるいは地域との関わりや、学校との関係性のなかでの原体験というか、イメージを持って中学校に入らなければ、そこでの活動もまた違ったものになってくるのかなど……。

○委員 まあ、子どもたちも変わりますし、家庭の中も変わってくると思いますので。

○議長 ありがとうございます。

ここで議事は一旦終了ですね。ここまでが議事ということになります。御参加いただいた関係者の皆様には、ここで退室になります。短い時間ではありましたが、お忙しい中、また、暗くなってから足を運んでいただきましてありがとうございました。また、今後もこういう機会がありましたら企画したいと思いますので、またぜひ、ご参加いただきたいと思います。そして、本日3つのグループからいろいろなお話がありましたが、皆様方の今後の活動に参考となれば、大変幸いです。どうもありがとうございました。お忘れ物のないように退室をお願いいたします。(拍手)

○委員 すみません、今、さっきの質問でカンペが回ってきまして、おやじの会の仕事として、警備、スタンプラリーの準備、後片づけ、焼き鳥を焼くという仕事があるそうです。

○議長 多分、小学校でおやじの会がいろいろとやって楽しかったり、これができるなどいうことを継承されているのではないかと思うのですが、何かそんな話を聞かれたことはありますか。

○委員 何ですか。

○議長 今、焼き鳥をつくったり、警備をやったりというお話がありましたが、小学校で楽しく、ビデオに描かれていたようなことをされた方たちが、子どもが小学校を卒業してから、中学校でやれること、やりたいことを見つけて、こういう機会に参加されているのかなと思ったのですが……。

○委員 それがとても悲しいことに、そこで終わってしまうおやじがほとんどですね。

○議長 それはなぜだと思いますか。

○委員 地域に受皿がないのだと思いますね。そう言うと、何か人任せですが、でも、そういったせっかくつながった地域のコミュニティが、そこで何かばらばらになってしまうのはとてももったいないなと思っていて、お父さんたちも、その地域貢献の機会だったり、そういったところにどんどん踏み込んでいくような仕組みをもっとできないかなと思っていますね。

小学校のおやじの会を卒業してしまうと、それでおやじのオール世田谷に参加してくれるおやじはいるのですが、そういうつながりがなくなってしまうということと、もしくは、もう一つのパターンとしては、子どもはいないんだけど、おやじの会にOBとして居続ける。それはそれで、何かいろいろ問題がまた起きてきたりするのですが、でも、それでずっとおやじの会、その仲よくなったおやじたちが、そのおやじの会の中でずっと居続けて、いろいろやっている会というのもありますね。

でも、その背景にあるのは、要するに、それ以外にそういうつながり、そういう機会がないからだと思いますね。それは何かもったいないので、何かそういう仕組みだったり、そういう取組がもっとあったらいいのになということ、まあ、思いますし、そういうことができないかなということちょっと考えています。

○議長 とても大事なポイントが出てきたと思うのですが、さっきのお話の中から、この東深沢スポーツ・文化クラブのいろいろな活動は、ある意味もう完成されたというか、20年も続いている、他の地域から見れば「これはすごいね」という活動でした。

でも、その一方で、おやじの会の関係の話からすると、小学校でおやじの会をあんなふうにやっていて、自主的に面白いこと、楽しいことをやりながらつくり上げてきたものが、

いろいろな理由で、子どもが中学校に行くと、どうも続いていかないというところもあると。

そうすると、何らかのチャンネルというか参加の仕組みみたいな、まあ、きちんとつくればよいというものでもないと思うのですが、そういうものがちょっと欠けているというか、東深沢スポーツ・文化クラブはあるんだけど、そこに直接的に接続するようなものでもないだろうということですよ。

そうすると、同じエリアに住んでいて、子どもの年代、お父さんの世代は違うけれども、あんなに活動できる人たちが——実際にいるから、東深沢スポーツ・文化クラブみたいな活動もできるのでしょうかけれども、何となく、うまく重なっているようなところと重なっていないようなところがあるということなのかなと思って、ご指摘を伺っていましたが、どうですかね。

○委員 その後は、発達段階も小学校、中学校で違いますのでね。それから、中学校へ行くと、先ほどありましたが、部活動というのが出てきて、結局子どもたちが非常に自主的になってきて、これは言っていないかどうか分からないけれども、まだ小学生の場合には大人の言うことを非常によく聞きますよね。中学生になると、そんなにイコールで「はい、はい」というわけにいかなくなってくるという発達段階もあるのかなということで、映像で見たように、いろいろなおやじの会で主催するウォーキングとか、肝試しとか、ああいうものにくっついてきづらくなるかなというような気がしないでもないのですけれどもね。まあ、発達段階の中で、どうしても、やはりバスケットとか野球とか、ああいうスポーツだとか、あるいは文化活動の、そういう種目的なものに行ってしまうような気もしないでもないですけどもね。

だから、どちらかという中学生にとっては、別におやじの会をどうのこうのではなくて、こういうスポーツ・文化クラブのほうが割と取っつきがいいのかなという気もしないでもない。

○議長 いかがですか。今、子ども自体が小学生から中学生になることによる変化ということがお話しされたと思うのですが、お父さんも同時に年を重ねていくわけですが……。

○委員 そういう意味で言うと、おやじの会は、要するに子どもたちのために体験イベントをやったりとかいうところから入りますが、さっきの動画にもあったように、おやじの仲間ができるみたいな、その2つの両輪だとは思うのですね。

でも、子どもが大きくなっても、もう一つの両輪のほうの、おやじの仲間というのはな

くならないはずなのに、そこで途切れてしまうということが非常にもったいないなと思っ  
ていて、子どものためにやっているというところから入るけれども、それが地域のために  
だったり、それこそ、もっとお祭りとか、地域の活動だったり、地域のイベントだったり  
とかを、もっとおやじを駆り出せばよいのではないかとも思いますが、その移行期間とい  
うものは確かにあると思うんですよね。

中学校、高校になって、もう子どもと一緒に活動しているというのは、逆に気持ち悪か  
ったりとかするし、子どもには自立してもらわないと困るというところもあるので、いつ  
までも子どもと一緒にやっているということは、やはり小学校だからこそこできるような活  
動だし、イベントなのかなという気はするのです。

ですが、そこで地域の器というか、地域のそういった活動、おやじたちが連携してする  
活動というものが無いということが最大の問題なのではないかと思っていて、本来ならば、  
それは町内会がやるべきではないか、その器になるべきではないかと思うのですが、町内  
会は町内会で、世代の離れた方たちがやっていて、そこに今からは入れないみたいなこと  
もあるのではないかなと思います。何かそういうつなぎになる組織や活動ができないか  
なと思いますね。

○議長　そういう面から考えることも、深めていかなければいけないですね。

青少年委員の活動などをされていて、いかがですか。

○委員　青少年委員の活動、59名いますが、男性は4名、あとはほとんど女性、当然PT  
A活動をされてきた方が学校のほうから推薦されて任命されたという形なんです。

お話と映像を見ていると、私もおやじの会の会長をやっている、PTAの会長をや  
ってました。それで何だかんだと知らない間に青少年委員になってしまったということ  
なのですが、本当におやじの会、上がないと、小学校のときにあれだけ盛り上がっている  
のですが、やはり子どもたちがいなくなると、ちょっと切れてしまうということは、ほか  
の小学校のおやじの会の人のお話を聞いたりするんです。

ただ、今度おやじだけ集まってしまうと飲み会しかない、そういう地域のボランティア  
がなくて、飲み会しかないよと。昔、子どもたちが一緒になって仲よくなったおやじたち  
で飲み会しかない。

それはそれでもよいのですが、たまたま私の玉堤小学校は多摩川が近く、玉堤小学校の  
おやじの会は、歴代アドベンチャーin多摩川のスタッフとして協力していたんです。そし  
て今もやっております。

それでOBになって残ってしまうとろくなことがないということで、ザ・サンダーというものをつくって、それはもう有志なんです。本当におやじの会で仲よくなった人たち、15人ぐらい仲よくなった人が、卒業と同時にいなくなってしまうてはもったいないな、かといって飲み会だけでは怒られてしまうと。

そういうことで、たまたまその地域性で、いかだ大会があるということで、今度OBとして、いかだ大会にスタッフとして参加、今は実行委員長もサンダーの仲間だし、副実行委員長もサンダーの仲間、そして我々は、サンダーとしてはゴールを預かりまして、ゴールの車の出入りとか、いかだの引揚げとか、そういうことをお手伝いするということがあるので、やはり今現在もつながっています。

そして、だんだん年が上がったとしても、現役のお父さん方も、我々を見て、またその空間でそういう卒業したお父さん方が集まって、我々と一緒に行動しているということができております。

また、祭り事も、結構大きなお祭りがあって、玉川神社は、みこしが5基、いろいろな地域からあって、連合と言って、五、六基のみこしが宮入りするのですが、やはり懂れていて、みこしを好きな人もいますので、声をかけると、今度地域のイベント、また、当然そこに入るのは、ただ担ぐだけではなくて、今度みこしの誘導だとかも、おやじの会出身の方がやるということで地域のつながりになる。

そうなると、やはり今度防災ですね。小学校というのは防災地域、一時避難所になりますが、いろいろな中学、小学校には防災倉庫があります。やはり防災倉庫の中を、現役のお父さんたちはそれを使って子どもたちのイベントをする、今度我々OBのほうは年1回か2回なんですけど、やはり備品の確認、倉庫内のものを引っ張り出して、それを使って、地域の人たちと、町会の人たちと一緒にということができているんです。

ただ、それはもう本当に地域性で、たまたまいかだのアドベンチャーin多摩川に昔からスタッフとして参加している、そしてみこし事が多い、そして町会もかなりあるのですが、結構話しやすいということがあるということで、OBになったとしても活動の場があるということは事実です。

青少年委員というのは地域が広いので、今日も4名来ていただいて、いろいろな地域から来るのですが、やはり突き詰めて話さない。青少年委員活動としては分かるのですが、では、自分たちの、皆さんの住まわれている地域の小学校、中学校はどうですかと言うと、なかなかそこまで把握できないのが現状です。

○議長 ありがとうございます。少し、論点を整理したいと思います。PTA活動とは違うおやじの会の面白さというか、何でおやじたちはあんなに頑張るのだろう、ということについて、ご報告をいただきました。ただ残念なことに、子どもが中学生になると、あのときの盛り上がりとは少し変わってしまうと。それをどうしたらよいのか。受皿がないのではないかというようなお話もありました。これも今回、実践をしていく中で浮かび上がってきた論点ではないかなと思います。

また、子どもたちが「ふらっと立ち寄れる場所」が必要ではないか。それから、学校の中に「学校と関係ないところから関わってくれる人」がいてほしい、という話もありました。

それから、同じような観点から、なにかを始める時に理由がなくなってしまうのではないか。理由があるものでないといけないというよりも、理由がなくてもやりたいということではないか、というようなお話がありました。

その一方で、やはり学校というものは意図的、計画的にきちんとするということが求められ、とりわけ、今日では「安全」ということが強く求められていて、なっていて、先ほど会が始まる前に話をしたのですが、学校に入るときに、今はピンポンと鳴らして名乗らないと、入れないようになっているところがほとんどなので、関係ない人がふらっと入って来れるような仕組みにはなっていないのですね。

そのような、「ふらっと立ち寄って、理由がなくても、ゆっくりできたり、リラックスできたり、家に帰る途中でちょっと気分転換できるような」というようなものと、「学校としてきちんとしなくてはならない、計画的にやっていかなければいけない」というような、大きな原理の違いのようなものがあるようですが、そのあたりはどのように考えていったらよいのでしょうか。いかがですか、ちょっと難しいかもしれませんが……。

○副議長 難しいですよ。いや、でも、今の世田谷は、学校の改築が進んでいる中で、本来であれば学舎融合で、もうその設計の段階で、地域に開放できる部分をちゃんとそういうところを、例えば千葉県にも習志野の秋津というところがあるのですが、そこなどはもう設計段階で「ここは、地域の人に開放する部分」というような形で、「平日はここまでは鍵を閉めて、学校管理のところには入れないようにする」とか、何かそういうものがないと結構難しいところはありますよね。

あとは、学童をちょっと参考に考えるしかないですよ。小学校の学童はどうなっているんですかね。同じ学校の敷地内にあるケースもありますよね。

○委員 今、世田谷は全部そうですね。

○議長 なんとという名称でしたか。

○委員 新BOPです。

○副議長 多分、安全管理上は、放課後という位置づけで何かしら活動をやる場合の保険とか、そういうものはありますよね。BOPに行けば小学校だって安全管理下から外れるわけですよね。やはりそれを応用して、放課後で何かできればいいんですけどもね。

○議長 小学校によっては、BOPは別のところから入りますよね。

○委員 はい。

○議長 中学校でも、PTA室が通常の校舎とは別の建物の中にあったり……。

○副議長 ああ、そういうのがあるといいですね。

○議長 ある学校では、体育館のところがありました。あれはたまたまそういう造りなのだろうと思うのですが……。

○委員 たまたまでしょうね。

○議長 学校は、たまたまそういう造りのところはあるけれども、そうっていないところは……。

○副議長 確かに場所は難しいところと、あと時間帯ですか。

○委員 そうですね、はい。

○委員 先ほどの理由づけの問題ですが、ちょっとこだわるようですが、実はずちの、このカフェの討議の中で、スポーツクラブのスタッフから、やはり対学校に対して理由づけしたほうがよいのではないかという意見が出ました。

どうということかという、いわゆるカフェを設立するに当たって、不登校生徒、いわゆる特別支援が必要な生徒に特化したらどうかという意見が出ました。つまり校長先生にはそういう希望もあるのですが、そういう子どもたちの居場所をつくるという一つの目的で、ある意味ではそういう理由づけですよね。そうしたほうがつくりやすいのではないですかというような意見がありました。それはちょっと没になりましたが、ですから、学校としては、理由がなければ、ということがあるのではないかなという気はしますけれどもね。

○議長 そもそも学校という組織は、理由にもとづいてつくっているものですからね。ふらっと、というのはなかなか難しいかもしれませんね。いかがですか。

○委員 私はこの会にいるので、あまりハードルないんですよ、これだけ聞いてしまっているのですね。聞いていない学校だと、どうかなとか、そういう部分はありますよね。

なので、別に何にも、先ほどおっしゃっていたように、「理由ない、それでいいんじゃないの」というのを、私もそう思うんですね。理由があって集まるということもあまりないでしょうから、そういう場があるということが一番いいのかなと。

あとは、お話が出たのですが、ハード面は学校によって全然違うんですね。例えば、体育館にPTA室があるのは、恐らく昔、体育館に管理員さんがいたんですよ。管理員さんの制度がなくなったから、その部屋が空いたからPTA室にと、そういう感じだと思うんですね。

学校の建築の基準として、PTA室を設けなければいけないというものはなかったのではないですか。だから曖昧な場所に曖昧に置かれていく。しかもエアコンのない場所に。そこで暑いときも寒いときも、PTAの役員さんが集まって活動されているというのは、多分そうだと思うのですね。

職員室というお話がありましたが、うちの学校では、職員室は外れの外れなんですよ。しかも校長室には、職員室の中を通らなければ来られないんですよ。そういう場所があるわけです。往々にして、一つの階の真ん中辺に職員室がある。そうすると、そこを通るのに「何かなあ」ということが当然ありますよね。だから、やはりハード面の制約はあるかなと。例えば、BOPというお話があったのですが、うちの中学校は敷地としては小学校と一緒になんです。その敷地の中を、ほぼ公道のような形で、地域住民の方はほぼ普通に通っているんですね。だから、知らない人が入る云々、何にもないです。しかも、BOPは中学校の構内にあります。

○委員 プールを開放しているから、特にではないですか。

○委員 そうなんです。だから、もう学校によって違ってきてしまうんですね。そのハード面は、改築とか、そういうことでないとなかなか解決にはならないとは思うんですね。

あと、先ほどおっしゃっていたのですが、中学校ではほぼほぼおやじの会はないねと。確かにそうなんです。私は今まで経験した学校でも、ないです。

その理由は何かなと自分でも考えたのですが、やはり中学受験は一つあると思うんですよね。中学受験で勢力が二分化されていくこともあるでしょうし、やはり部活があると思うんですね。多分、部活と家庭のせめぎ合いを親御さんは考えていて、大体1年生の夏休みまでは、自分の子どもを旅行などに連れていこうという意思是働いている。でも、そこから後は、大体、部活にはチームみたいなものがあるので、チームで欠ける、足りない、いないとかいうことに対して、何か心理的なことが起きてくるので、ある意味、学校に子

どもを取られている部分があるので、そこから親御さんはあまり立ち入ってこないですね。

そのせめぎ合いが大体1年生の夏休みではないですかね。それ以降は自分のお子さんを家の活動に持っていこうということはあまりないかなと思いますよね。

むしろ今後、部活が地域に移行するようなことになると、またちょっと環境というか、条件は変わってきて、今のようなことが変わるのではないかと思いますね。だから、ハード面だとか、そういう環境によって、今後大分変わっていく可能性はあるかなと思います。

なので、この会の雰囲気을いかに世田谷の中学校さんに伝えようかなと、今思っているのですが、そういうものが伝われば、そんなにハードルはないかなと思っていますが、以上です。

○議長 ありがとうございます。

将来的には、おやじの会で、何かこのクラブだったら、フットサルをやっている好きな人たちが、フットサル部を中学生とやっっていこうみたいなことは起こりそうですか。

○委員 子どもとということですか。

○議長 部活動の地域移行という観点で。

○委員 全然あると思いますね。今はフットサルのチームがおやじの会としてやっていたりソフトボールをやっていたりしますが、子どもをどんどん入れて一緒にやろうというふうにも言っているし、そうなっても全然いいと思ってみんな活動しているんです。

だから、その東深沢でやられているような、自分の子どもはいないけれども、子どもたちに教えるとか、一緒にサッカーやろうとか、野球やろうとかということは、そういう仕組みがあれば、全然生まれると思いますね。だから、すごく羨ましいですね。でも、本当は「自分でつくればいいのに」と言われそうな気がするから、あまり言わないですが……。

○議長 部活動の地域移行については、おやじの会的なイメージで語られることはあまりないのではないのでしょうか。まあ、部活動の時間帯に、仕事をしている社会人が関われるかという問題もありますが、でも、何かうまい具合にすれば、できるかもしれませんが……。

○委員 まあ、どこもみんな苦労しているみたいですね。

まず、平日の午後だということですね。そして、指導している人が大体みんな働き盛りの30代、40代の人だと。私みたいに暇人が行けばよいのですが、それは、口は動くのですが、もう体が動かないですから、その辺の問題と、やはり指導者と、あとシステムの問題

ですね。

それから、やはりお金——まあ、お金を欲しがって指導する人というのはあまりいないと思いますが、やはり経済的なものは大きいと思いますね。

○議長 その辺も今後のテーマになっていきそうです。会社員であっても、働き方が変わってくれば、もしかしたら、そのうち、特定の平日は、自分は地域で活動をする日、ということが実現するかもしれないですよ。

○委員 そうですよ、部活指導休暇とか、そういうものは多分できると思いますけれどもね。

○議長 早く帰れる日、とかね。

○委員 それも仕事のうちになると。

でも、私はやはり町会だと今日気がついたというか、町会はまだ高齢で困っているんですよ。そうしたら、まずそういう若いお父さんたち、おやじの会のお父さんたちが、自分の子どもは大きくなってしまったけれども、よその、地域の子どもでもいいではないか、自分の子だけではなくて地域の子どもをというふうに考え方が変わってくれることが大事かなと思うのです。

そして、その地域の子どもたちを何かあったときに守るんだという心意気があって、その地域に、そこに存在しているということを、町会長たちはもっと知って、知ったら、絶対に町会の中に入ってほしいと思っていると思うし、そしてまた、町会の中でのいろいろなイベントをつくり上げていって、町会に入っていく人が増えていくということのほうが、すごく自然ではないかなという気がしました。

○副議長 でも、おやじの会を卒業した人たちのつながりとマンパワーはもったいないですよ。中学校は、避難所運営は……。

○議長 いや、するはずですよ。

○副議長 しますよね、避難所運営委員会は。

○議長 もう戦力ですから。

○副議長 ですよ。

○委員 やっているのですが、やはり町会が高齢化しているということはあるから、往々にしてよくやるのは、やはり9月1日の防災の日で、でも、最近の9月1日は地獄のような暑さですよ。だから、それをやめてくれという町会も、過去に私は経験したことがありますね。



になります。

また、11回に関しては年明けの1月26日（金）頃を予定しておりますので、来月また皆様には日程調整をさせていただきますが、一応今の段階では1月26日（金）を予定しているということで御予定を空けていただければと思っております。私からは以上です。

○議長 今スケジュールの説明がありましたが、何かございますでしょうか。1月を含めて残り2回ということでございます。年度末のお忙しい時期ですが、どうぞよろしく願います。

特にないようでしたら、これで本日の定例会を終了いたします。どうもありがとうございました。

午後8時32分閉会